

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所
事業所名：辰野町中央保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>[取り組み状況] 子ども一人ひとりを大切にし、保護者や地域から信頼される保育園を目指す事を理念として、安心して預けられる保育園の基本方針のもと、また、子ども一人ひとりの発達を援助し、保護者とともに開かれた子育て支援の保育方針のもとに、0～5才まで各年齢に応じた計画が作成され実施している。</p> <p>[検討課題] 保育課程の定期的な評価を行い、保育所の実態を把握した、保育の全体的な計画の作成を期待したい。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 □ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 □ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>[取り組み状況] 今年度より各部屋に冷房の設備が設置され、熱中症予防、午睡には快適な環境となっている。 園庭の樹木の老木はベンチや熊などのアートになり、子ども達が活動する場所も広々としている。また、遊具の点検もして、危険の無いような配慮もしている。</p> <p>[検討課題] 空き部屋を午睡室にするなど、有効活用の検討が望まれる。また、不審者対策として園庭側の窓を閉めており、風を身体で感じられる配慮も時には大事であろう。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの家庭環境、子どもの育ちを把握して子どもに寄り添う保育に心がけている。</p> <p>[検討課題] 子ども達を肯定的にとらえるために、チェックリスト等の作成・活用で、職員間での共通理解を期待したい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>[取り組み状況] 保育の期案、週案に各年令の発達に応じた基本的な生活習慣(排泄・食事・清潔・着脱・睡眠)の計画があり、繰り返しの中で身につける様に支援している。</p> <p>[検討課題] いわれなくても自分の体の事を知り、病気にならない為の習慣化が更に自立できる取り組みを期待したい。</p>
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> □ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 □ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>[取り組み状況] 子どもの遊びの広がりができるようなペットボトル、ペーパーの芯や空容器などの材料を常に用意している。 また、戸外での遊びを多くし、散歩に行き、自然にふれたりする機会を持つ様になっている。</p> <p>[検討課題] 園舎の近くには、役所・図書館・消防署などの様々な施設が存在しており、更に身近な大人と社会体験できるような教育的配慮も含めた内容の充実を期待したい。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの発達をみながら、安心して安全に生活できるようにつかまり立ちのできるような柵を作ったり、ダンボールで隠れる場所を作ったり、さまざまな工夫をしている。連絡帳には毎日子どもの様子を細かに記入して保護者と子どもの成長を共有している。引っ張ったりつまんだりできるペットボトルで作った手作りの玩具で、手指の機能の発達を促すような遊びも取り入れている。</p> <p>[検討課題] 子どもたちが触れたり見たり探索したりと、更に興味や関心を持つ援助の工夫、成果に期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもが安心して生活できるように保護者と協力しながら、子どもの一日の姿を連絡帳に記載しているため、成長の喜びの共有は容易と思われる。 ペットボトルなど指先を使うような手作りの玩具を作って、子ども同士が遊んでいる。また、一人ひとりが牛乳パックの椅子で衣服の着脱をしたり、排泄の援助をして、自分でやろうという気持ちを大事にしている。 [検討課題] 一人ひとりの発達を更に看ながら、寄り添った保育の継続的な支援を期待したい。
				□	41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	
				■	42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。	
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。	[取り組み状況] 作成した各年齢の年間保育計画をもとに、期・週案を作成して保育をしている。 また、クラスだよりを配布して、子どもたちの様子を伝えている。 [検討課題] 年長児は生活リズム、午睡の無い生活など、就学に向けた各内容の開始時期などについて、検討を経た計画化が期待される。
				■	44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。	
				■	45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	[取り組み状況] 支援を必要とする子どもに加配保育士の配置があり、個別支援計画を立てて保育をしている。 小児科医・保健師・臨床心理士の巡回相談も年5回ある。また、保護者と一緒に医療相談や学校訪問など、個々に応じて対応している。 [検討課題] 障害のある子どもの保護者の気持ちに共感し、援助する取り組みの更なる充実が期待される。
				■	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■	48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	[取り組み状況] 支援を必要とする子どもに加配保育士の配置があり、個別支援計画を立てて保育をしている。 小児科医・保健師・臨床心理士の巡回相談も年5回ある。また、保護者と一緒に医療相談や学校訪問など、個々に応じて対応している。 [検討課題] 障害のある子どもの保護者の気持ちに共感し、援助する取り組みの更なる充実が期待される。
				■	50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学前の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	
				□	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	[取り組み状況] 支援を必要とする子どもに加配保育士の配置があり、個別支援計画を立てて保育をしている。 小児科医・保健師・臨床心理士の巡回相談も年5回ある。また、保護者と一緒に医療相談や学校訪問など、個々に応じて対応している。 [検討課題] 障害のある子どもの保護者の気持ちに共感し、援助する取り組みの更なる充実が期待される。
				■	53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	
				■	54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	[取り組み状況] 支援を必要とする子どもに加配保育士の配置があり、個別支援計画を立てて保育をしている。 小児科医・保健師・臨床心理士の巡回相談も年5回ある。また、保護者と一緒に医療相談や学校訪問など、個々に応じて対応している。 [検討課題] 障害のある子どもの保護者の気持ちに共感し、援助する取り組みの更なる充実が期待される。
				■	56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	
				■	57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	□	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	[取り組み状況] 支援を必要とする子どもに加配保育士の配置があり、個別支援計画を立てて保育をしている。 小児科医・保健師・臨床心理士の巡回相談も年5回ある。また、保護者と一緒に医療相談や学校訪問など、個々に応じて対応している。 [検討課題] 障害のある子どもの保護者の気持ちに共感し、援助する取り組みの更なる充実が期待される。
				□	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況] 未満児、以上児と別の部屋で長時間保育を行い、それぞれ出席人数の確認をして、自由に遊びを展開している。そして、夕方5時30分以降は未満児棟に集まり異年齢交流としている。水分補給は常にあり、6時以降には補食もある。長時間保育日誌も作成され、送迎時間、迎えに来た保護者も記録されている。</p> <p>[検討課題] 延長での保育体制はできており、安心の場所として過ごせるように更に充実した配慮を期待したい。 なお、冬季の退園時における安全を配慮した、</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>[取り組み状況] 小学校5年生との交流もあり、お店屋さんごっこを楽しんだり、運動会などに参加している。年長児は近くの小学校まで歩いて行き、学校のまわりで遊んだり見学する機会もある。小学校との連絡会・参観もあり、学校からの教師の訪問もある。</p> <p>[検討課題] 年間計画の中に小学校との連携内容について記載するなど、計画性を持った保育へと進める事も必要であろう。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<p>[取り組み状況] 辰野町としての健康に関するマニュアルは作成されている。そして、園で発生した疾病については、そのつど園だよりで情報を伝えている。また、ケガ・疾病については、保護者・行政にも伝えている。未満児は15分おき、以上児は30分おきにプレスチェックをして呼吸の確認をして記録している。</p> <p>[検討課題] 呼吸確認チェック表は実施したことの確認で済ますことなく、園児ごとの確認用紙とするなど、子どもの生命を預かる者としての意識を高める工夫などは期待したい。 なお、保護者にもSIDSに関する情報を伝えていく事も必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>年2回の健康診断・歯科検診を実施している。健診結果は保護者に報告し、治療の必要な子どもは、医師の診断を受け、治療証明書の提出がある。3才以上児は食後の歯ブラシを実施している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>治療の必要な子どもの保護者へ、健康管理の理解を促す更なる援助は必要であろう。また、歯みがき後の仕上げみがきなどの確認も期待したい。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 <input checked="" type="checkbox"/> 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>アレルギー対応マニュアルが作成されており、園長・栄養士・保育士・調理員が共通の情報を理解している。</p> <p>該当児の保護者には医師の指示書を提出してもらい、保護者・関係職員と面談して対応している。そして、代替食を用意しており、対応が不可能の場合はお弁当持参とし、電子レンジを用意して保温している。</p> <p>また、エビペンの研修は全職員が受けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>毎日アレルギー除去食の確認日誌が記録されており、アレルギーについて該当児だけでなく、他の子どもや保護者も理解できる取り組みも期待したい。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 91 食器の材質や形などに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>食育の年間計画が作成され、0～5才までの食育目標がある。年中・年長児が畑作りをして、トマト・キュウリ・ナスなどの野菜の成長を楽しんでいる。</p> <p>年長児が収穫した野菜の名前を放送で知らせ、給食室で調理してもらっている。また、年少児には給食参観日を設けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>その日の献立をサンプルケースにレシピとともに展示したり、給食の材料・産地などを掲示すると、保護者も子どもの給食摂取量もわかりやすく、食育の取り組みの理解も更に進み家庭との連携も深まると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>[取り組み状況] 年2回、辰野町の栄養士による全園児の身長・体重増減のチェックをして発育状況の検証をしている。毎日検食簿に残食献立に対する感想も記入し、献立にも反映している。栄養士が毎日の献立に対する「ひと言」の説明があり、保育士が子どもへの食事支援に役立っている。 地域のご当地グルメとして、ほたる丼・ローメン汁などの提供もある。</p> <p>[検討課題] 栄養士が全保育園の家庭に「おいしく食べよう」ニュースで食育についての情報発信をしており、保護者の食への理解が更に深まることを期待したい。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 □ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>[取り組み状況] 連絡帳に子どもの園での姿を知らせ、成長の喜びを共感している。 また、園だよりや参観日、懇談会を設けて、園での子どもの姿を理解してもらっている。</p> <p>[検討課題] 保護者と子どもの成長の喜びを共有し、保護者の養育力の向上につながるような内容の検討も期待したい。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □ 112 相談内容を適切に記録している。 □ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>[取り組み状況] 園だより、クラスだよりで園での子どもの姿を保護者に伝えている。また、必要に応じてホワイトボードに記載している。 なお、今年度より年中・年長児の希望する保護者に保育参加・体験の事業を開始し、始めて参加した保護者には好評である。</p> <p>[検討課題] 懇談会や相談体制はできており、それらの内容を記憶で済ますことなく、記録する事で地域の子育て環境や課題も把握しやすいと思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 □ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 b) <ul style="list-style-type: none"> ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>[取り組み状況] 毎日朝の視診で子どもの表情・しぐさ・様子を細かく観察している。そして、身体測定、着替えなどで傷や変わったことがないか注意して視ている。対応が必要と思われる場合は行政と連携して、早期の対応がなされたことも。</p> <p>[検討課題] 虐待についてのマニュアルの見直しとその定期的な研修で、早期発見・予防・対応体制の充実が更に期待される。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 □ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>[取り組み状況] 週案・日誌で毎日の保育の振り返りをしている。また、園内研修、月・期ごとの反省を年令別で行っている。学期末には園長との面談もあり、自己評価も行っている。</p> <p>[検討課題] 保育の反省、振り返りを重ねる事が保育の質の向上につながるものであり、一人ひとりの子どもの発育を尊重し、目指す保育が今後も実施できるように期待したい。</p>